

令和 6 年 4 月 29 日 メルボルン交流抄

「ANZAC を巡る日豪協力の象徴、巡洋艦「伊吹」

4 月 25 日の ANZAC Day に、ビクトリア州退役軍人連盟（RSL VIC）が主催する追悼式典に参加してきました。1915 年 4 月 25 日、オーストラリアと NZ の合同陸軍部隊（ANZAC）が、トルコのガリポリ半島に上陸作戦を果敢に試み、8 ヶ月に及ぶ戦闘で死亡者 8000 人以上の大被害を被ります。オーストラリアでは、この日に犠牲者の追悼と兵士たちの献身的な貢献と功績を讃える式典が行われます。今はそれ以降の第二次大戦、朝鮮戦争、その他国連 PKO など、オーストラリア軍のオペレーションにおいて亡くなったオーストラリア人兵士も対象となっています。

今年もビクトリア州の総督、首相らが参加して、メルボルンの戦没者追憶堂で行われました。会場に到着すると日頃から親しくしている Mr. Dean Lee、戦没者追憶堂館長が笑顔で迎えてくれました。



3年前に総領事として着任した直後、この施設を初めて訪れた時、またその後もいつも温かく迎えてくれます。そして、彼が ANZAC について、日豪協力関係の象徴として、感謝の気持ちを込めて語ってくれたのは、日本の巡洋艦「伊吹」のことです。当時 ANZAC の主力部隊をオーストラリアからエジプトまで護送する軍艦として日本の巡洋艦「伊吹」が同行警護しました。当時は日英同盟の下、英連邦のオーストラリアとも同盟関係にありました。「伊吹」、英艦「マイノートル」、豪艦「メルボルン」及び同「シドニー」の4隻でフォーメーションを組み、40隻に及ぶ輸送艦を警備していました。そのイラスト（左上に「伊吹」）が追憶堂内の記念館に展示されています。1914年11月25日に「伊吹」の任務は完了し、その5ヶ月後にガリポリ作戦が始まりました。

第二次世界大戦の不幸な一時期を除けば、長年にわたり日豪関係は同盟国/同志国の関係だったということです。今後も共通の価値観を有する、アジアにおけるベスト・パートナーとして日豪の関係強化が進むものと確信しています。

